

## ユニークなビジネスチャンス — ヘレンドロン教育支援グループ

ヘレンドロン教育支援グループ（HDEG：<https://helendoron.com/>）について紹介させていただきます。ヘレンドロンは現在、三方面に渡る有望な多国籍モデルのフランチャイズを手掛けています。一つは、幼稚園就学前ヘレンドロンアカデミーの卓越した理解促進カリキュラム、次にヘレンドロン英語スペイン語、三つ目はマスライダー（数に関する内容）です。ヘレンドロンは1985年に大規模な旅を始めました。それを機にヘレンドロンは世界的に著名な外国語教育手法を開発したのです。その手法は数学、音楽、動作プログラム、芸術、優れた運動神経スキルに渡り、その学習手法は賞を獲得するほどに子供や10代の青少年に高い効果を及ぼし証明されています。

ヘレンは子供達が学習する間、楽しく幸せであるべきだ、と信じています。ヘレンドロンで学んだ子供たちはこの例外的なメソッドを経験して用意周到な洗練された大人に成長しています。ヘレンの閃きは、有名な鈴木博士のスズキ・メソッドにより小さな彼女の娘がバイオリンを習っている様子を見たときでした。ヘレンはその動機付けを捉え、ユニークな前駆的学習資料を編み出し、革新的学習手法を創造し、今では世界中の300万人を超える子供達、10代の青少年が利用するに至っています。

今日、ヘレンドロン教育支援グループは学童の教育プレステージへのビジネスチャンスとして、110拠点のマスターフランチャイザーを持ち、40カ国、四大陸に及ぶ1100の学習センターや幼稚園にて展開されています。フランチャイズ創始者としてヘレンドロンは常にコミュニティーの向上、利益と資本短期回収を目指す健全なビジネスモデルを目標としてきました。それに加え、ヘレンドロン教育支援グループは2022年、アカデミックな卓越性が要となる賞や褒賞により同分野に携わる者たちから世界的に認められたのです。

I.J.ビジネス道社([I.J. Do](http://www.ij-do.com))は、イスラエルと日本のビジネス展開および、コンサルタント業務に携わるイスラエルの会社です。同社の支援のもと、ヘレンドロン教育支援メソッドは日本市場での最適なフランチャイズパートナーを求めています。

## ヘレンドロンのストーリー：現地密着型ビジネスへの閃き

以上前、スズキ・メソッドに従いバイオリンを習う幼い娘を見つめながらヘレンドロンはインスピレーションを得るに至りました。スズキ・メソッドが音楽の言葉を教えるのであるならば、言葉の音楽を教えることができるのではないだろうか、と。

ヘレンドロンメソッド：子供にとって最善の学び方。

**繰り返しバックグラウンドに音を流して聴くこと** — 各個人に対応する小グループにて言語を学び、家庭内でその言語に繰り返し接する中で素早い神経反応が増え脳力が高まります。

**肯定的な励まし（強化）** — 能く鍛錬された、熱意ある教師が緊張を和らげるやり方で前向きな環境を整えます。それによって、生徒はエモーショナルな強さを養い、高い認識レベルに至る内容をより効果的に学習するのです。

**楽しく学ぶこと** — 教室での体験が楽しくて生徒の生活、興味、体験に即しているのならば、脳機能イメージングと脳科学研究は、そこで圧倒的な学習効果が顕われる、と説明しています。

**小グループで学ぶこと** — 子供は周囲に自分の考えを説明することや周囲から学べる活動に加わることを通して学んでゆきます。子供は学習活動を整理したり計画したり、そして周囲と協力しながら、フィードバックを与えたり得たり、そして学習そのものを評価する中でスキルを磨いてゆくのです。

## ヘレンドロンアカデミー：幼稚園就学前&小学生コース

早期教育の革命：バイリンガル環境で育つと子供の脳力は高まります。ヘレンドロンアカデミーは幼稚園就学前から始まり小学生コースへと進みます。子供はとても楽しく学び第二言語を無理なく習得しているのに気付かない程です！ 少人数制のクラスは刺激的なアクティビティー、学習を楽しく効果的な内容にするゲームやオリジナルソングなどの活動が満載なのです。

手で触れる体験（実践体験）を通しての学びは学習に意味を与え、理解を深めます。

ヘレンドロンは前向きな励まし（強化）や対面教授、遊びに由来する学習、ふんだんな音楽を通して子供に知識獲得を促します。カリキュラムは世界的なリサーチを基礎として、教育専門家、初等教育、言語学から構成されるチームに熟考され開発されました。弊社の目標は健康で自信に満ちた人間が地球に、そして全ての生きた創造物に対して慈しみある幸せな子供を育てることです。

ユニークな自社開発カリキュラムには以下の項目が含まれます。ヘレンドロン英語、ヘレンドロンスペイン語、算数、身振りによる言語、アート、多種にわたる音楽、正しい動作スキル、楽しい工作、科学と身体作り、いのちの魂。

### ヘレンドロン英語&スペイン語:子供を大切にすることを優先しています！

第二母国語習得は楽しく、その上、容易です。

子供は、遊び、学ぶことが大好きです。楽しい時に最もよく学びます。子供は長い間座り続けるのが苦手です。— 学習意欲も削がれてしまいます。



弊社の授業は感覚を刺激しつつ楽しさに満ちたアクティビティー内容です。言語習得がオリジナルソング、ゲーム、豊かな会話と交流で編み出される冒険になっているのです。

弊社は3ヶ月の乳児から19歳までの子供たちに対応し、学習レベルと学習スタイルを各個人に合わせて教えます。学習を容易にしつつ、最高のアカデミック効果を達成しています。

### マス(算数)ライダーズ:算数愛に捧ぐ

マスライダーズは革新的、ユニークなアプローチで実践学習を盛り込み、リアルな生活体験を通して算数を教えます。

学習は楽しく、相互交流の中で教室に身体動作、音楽、パズルなどのアクティビティーを導入し、あえて苦勞の必要がないように工夫されています。マスライダーズは確立された手法を基礎として子供に自然な形で数的思考、自信、リーダーシップスキルなどの習得を促します。

証明されたヘレンドロンメソッドを採用し、子供の異なる学習スタイルを考慮しながら精査された効果あるアクティビティーの提供がマスライダーズの基本であり、子供の心を算数の言語に向かわせます。算数が楽しく直感的な手法で登場すると子供たちは熱い反応を示してくれるのです。

**地域密着型のビジネスからグローバルなフランチャイズネットワークに伸びてゆき、**証明された教授メソッド、オリジナルな歌、動物ビデオ、教育アプリなどのクリエイティブな学習教材を駆使して、ヘレンドロンは英語や第二外国語であるスペイン語教育に新たな世界を開きました。

ヘレンドロン教育支援グループは、過去数年の間に数々の賞を受賞し、フランチャイズサポート、専門指導力、リーダーシップなどの側面で教育界にその卓越性が認められました。HDEG は世界中の乳児、子供、10代の青年、成人へ向けて、革新的な結果重視の教育プログラムを提供してまいりました。今、日本市場参入への準備が整ったところです。

ヘレンドロン教育支援グループは有望なパートナー、コミュニティへの付加価値を目指す優れた起業家の皆さまに向けて、有望な教育ビジネスフランチャイズ展開への参入チャンスを提供させていただきます。

2022年、ユニークなヘレンドロンメソッドを用いて300万人以上の子供たちが第二外国語を学びました。今日、ヘレンドロンは1100以上の国際教育団体と世界40カ国に広がる学習センターを展開し、その伸びは年ごとに増加しています。

御社に弊社からの提案をご考慮頂けるならば、それは私どもの大きな喜びとするところです。

### ヘレンドロンの学習メソッドはどのように生まれたのでしょうか？

ヘレンドロンの娘、エラが4歳の時に、ヘレンは楽器演奏を身につけて欲しく、イスラエルのカルミエルという街でスズキ・メソッドに出会いました。エラの最初のレッスンに参加した時、

ヘレンは音楽教育メソッドを確立した鈴木鎮一博士の哲学と教育手法に触れたのです。

ヘレンは興味の赴くまま、スズキ・メソッドについて全ての書籍を完読しました。



幼い子供が母国語を習得できるように、音楽の早期教育も可能である、と鈴木博士は信じました。子供はどのように母国語を習得するのでしょうか？まず、母国語の持つ音を繰り返し聴くことから始めます。そして最初の言葉を発し、両親は必ず喜びます。子供は繰り返し発話するように励まされるのです。このようにして発話を学びます。読み書き習得までに子供は平均6000語の単語を話すのです。

スズキ・メソッドで、子供は最初に音を出すことを学び、その後、読譜を学びます。

伝統的音楽教育では最初から子供に読譜を強要する、という過ちを犯していると鈴木博士の見識では理解されています。音符は音楽ではない、と博士はお考えなのです。それはまるで子供が本を読めるまで発話が許されないと同じことです。ヘレンにとってこの発見は啓示でした。



ヘレンドロンの問いかけは、

**もしも母国語習得のような音楽学習法があるのなら、**

**母国語習得のような言語学習法があるのではないかと、いう事でした。**

**もしも鈴木博士がメロディの言語をお教えになるのなら、言語のメロディを  
教えられるのではないのでしょうか。**

ヘレンは（子供の言語発達）を含む専門で学位を取得しており、この問いかけは強くみなぎり鼓舞されるものでした。これらの履修コースを楽しく学んでいて、まさかそれが将来のビジネスの糸口になるとは思ってもいませんでした。ヘレンが在宅しながらできる仕事を探している時にそれは実現したのです。

スズキ・メソッドのエlegantさ、シンプルな運用法に目覚め、

ヘレンはそのコンセプトを英語学習に応用できないか、と模索したのです。ヘレンは周囲のイスラエルの子供たちが英語学習に苦しむ様子を見ていました。その時に鈴木博士が音楽学習で主張された事柄を確認したのです。

それは、学校では発話する言語習得が読み書きと同時に教えられる、という事でした。子供たちは学習意欲のなさや知性の欠如ゆえに苦しんでいるのではなく、話すことが読み書きとは全く別の事柄だからなのです。

当初、ヘレンは英語学習において母国語習得の手法を用いた学習法が既にどこかに存在していると思っていました。しかし相反するスキルを、それも年齢が上がり、同時に学習するという古い学習法しか見当たりませんでした。



ヘレンドロンはそれでも学習法を探し続けてイスラエル（明確なニーズがあるにもかかわらず）に存在しないのであれば、別の場所にあるのだろう、と想像するに至るのです。

驚くことに利用できる教材セットはどこにも見当たりませんでした。ヘレンドロンは他の関連分野研究について掘り下げる作業を始めました。鈴木博士を起点としてヘレンは人間能力開発研究所でのグレンドーマン氏の業績を詳細に検証し始めました。

ドーマン氏は子供の脳は（大きさと神経伝達点ポイント数の両方で）6歳までに成長するとの前提に立ち、研究対象を乳児と低年齢の子供に絞っていました。そこには、繰り返し登場する重要な事柄が早期教育の手法として見出せました：

1. 早期に取り組み始めること—できるだけ早い時期に。
2. 言葉の音楽を教える。
3. 訂正に集中せず前向きな励まし（教火）を通して楽しくストレスのない環境を目指す。

ヘレンドロンが調べれば調べるほど、彼女の興奮の度合いは増して、ヘレンはこれらが正しいアプローチなのだとなんげがゆくのでした。彼女自身にとっては当然だったのですがヘレンは多くの反対論者と出会い、予期せぬ攻撃を受けました。

ヘレンは度々、そのように幼い子供たちに教えることはできない、と言われ続けました。ヘレンが情熱を注げば注ぐほど、地方の主流である教育コミュニティの反対は強くなってゆきました。既成プログラムが見つからぬまま、遂に、ヘレンドロンは自らの手で何事かを創り始めたのです。何にもまして、ヘレンドロンはそれが可能であると証明したかったのです。